

Vol.71

院長 関の

Face to Face

2014年 5月 1日発行



「前回から引き続き「甲状腺」のお話(その3)です。甲状腺の病気のメカニズムがわかって来たのは近年のことです。そして、甲状腺専門医はそんなにたくさんいらっしゃいません。また甲状腺機能を知ることができる血液検査は通常の健康診断の項目には入っていません。しかも、突然発病するわけではなくじわじわと症状が現れます。症状は様々ですが、例えば「眠い」とか

# 甲状腺は何をする？ (3)



「疲れる」とか「やる気がでない」とか「寒がり」など、普通の人でも起こり得る症状の「疲労がたまつたのかな」：「うつかしら？更年期障害？」などと勘違いしてつい見逃してしまっています。更にわかりにくくしているのが、機能低下では寒がりになるが機能亢進では暑がりになる：機能低下では太るが機能亢進では痩せる：といった具合に甲状腺の病気によって

は症状が正反対であるということ。更に更にわかりにくくしているのが、甲状腺ホルモンは全身に影響しているため症状も全身に、様々な形で現れるということ。子供の場合もやっかいです。子供のバセドウ病は大人とは違い情緒や行動の変化、集中力の低下による成績不振：といった形で症状が現れます。つまり、甲状腺の病気は頸部が腫れたり、眼球が突出したり、喉などに違和感を感じない限り、なかなか見つけにくいのが現状なのです。

次号に続きます

関 修一(せきしゅういち)

健育会 東銀座整骨院・整体院・

鍼灸院 院長

代替医療の総合治療院としての確立を目指す。タイトルの「Face to Face」は、患者さん自身と向き合って患者さんの症状と闘う「こと」を願ってつけた \* 毎月1日の発行です